

# 令和2年度

## 第1回 北広島市旧島松駅通所整備基本計画検討委員会 議事録

日 時 令和2年10月27日(火) 午後6時30分～午後8時  
場 所 北広島市広葉交流センター2階 研修室

◎出席者

- 委員  
角幸博、平井卓郎、森朋子、圓谷昂史、藤井浩
- オブザーバー  
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課：赤井文人  
北広島市企画財政部企画課長：橋本征紀  
北広島市経済部観光振興課長：山田基  
北広島市建設部建築課長：松崎隆志
- 事務局  
北広島市教育委員会教育長：吉田孝志、教育部長：千葉直樹  
エコミュージアムセンター長：丸毛直樹、主査：永坂隆之、主査：畠誠
- 委託業者  
コンサルタント会社：株式会社KITABA 神長、窪田、百瀬  
北電総合設計株式会社 西川、大日向

### 委嘱状交付

教育長より各委員へ委嘱状を交付した。

### 1 開 会

### 2 北広島市教育委員会教育長挨拶

教育長より挨拶。

### 3 委員等紹介

各委員、事務局より自己紹介。

### 4 検討委員会設置条例について(資料-1)

事務局より資料1に沿って説明。

### 5 委員長、副委員長の選出

委員の互選により次のとおり選出。 委員長：角 幸博、副委員長：藤井 浩

### ※ 傍聴者について

角委員長 おひとり傍聴を希望される方がいるが、傍聴することにご異議あるか。

委員 異議なし。  
角委員長 傍聴を許可する。

## 6 議事

### (1)保存活用計画の概要説明(資料-2)

事務局より資料2に沿って説明。

### (2)整備基本計画の全体像と今年度検討内容について

#### ①ゾーニング・動線、展示、公開活用(資料-3)

事務局より資料3に沿って説明。

委員長 説明いただいた資料について、ご意見いただきたい。

副委員長 地域の学校で出前授業を行う際に子ども達に聞くと、見本田で赤毛を植える体験が楽しかった思い出として残っているが、駅通所については記憶があまりない感想をもらった。史跡内にあるモノ同士の有機的な関係がわかりづらいと思う。史跡内を散策したとき、史跡の価値や歴史的背景などの内容を理解しながら歩くというのは難しいと思った。  
旧島松駅通所はエコミュージアムのサテライトになっており、サテライトの中でも中心的な場所なので強調したい。特に、市民大学の卒業生が支えているというバックアップがあるのでそのことを強調したい。

委員長 史跡内で色々な時代が錯綜しており、要素がたくさんある。時代ごとに要素をわけ、クラークならクラークに関するルートとするなど、分類しないとわかりづらい。

委員 現地を見学した際に、道と駅、北海道の中でどのようなネットワークがされて、旧島松駅通所が北海道の駅通所文化の中で、どのような位置づけなのか知りたいと思った。そもそもなぜ駅通所ができたのか知りたい。

委員 本日初めて見学した。YOUTUBEなどでも事前に見ており、様々な魅力が詰まっていてとても面白いと思った。

他委員が言うように色々な要素があるので、何を見せたいか、何をみてほしいか、上から見た方がいいか、下から見た方がいいかの視点の付け方を整理した方が良い。例えば年齢に合わせたルートマップがあるなど、現在どのような方が利用されており、今後のターゲットをどうするか決まっていれば、その方々に訴求する見せ方をするなどが考えられる。

解説文に英語の併記がない。コロナの影響で海外客は少ないが、在日の方もいる。今後は外国の方への配慮も必要。

バリアフリーという視点も大切で、ユニバーサルカラーでの展示もそうだが、外回りの砂利道を車いすで通る際の配慮も必要である。

事務局 今年の来場者としては、休日は家族連れやご夫妻が多い。これまでは、バスツアーの方も多かったが、今年度はコロナの影響もあり、近郊の方々の来場が多い印象である。市内の小学校3～4年生には来ていただいている。

委員長 建物自体を見せたいが、それをどう見せるかが大切で、その際になんらかの説明が必要。地域

の子どもたちに駅通所の印象が薄いのは残念。あれだけの建物が自分たちのまちにあることを誇りに思ってもらいたいため、考えていかななくてはならない課題である。

現在の建物の中で子どもたちに話をする機会はあるか。

事務局 小学校の社会見学でかなりの学校が旧島松駅通所を観光する。その際、管理人が室内外を周りながら説明を行っている。また、今年は実施できなかったが、バスツアーなどを毎年行っており、建物内外の説明は行っている。

委員長 現地見学で駐車場を見たが、大型のバスが入るのは大変な印象。コロナの影響で人数制限があるため、その分台数も増えている現状で今後も課題になると思う。

駅通所のライトアップも人気があったと聞いたので、隠された魅力も抽出して、整備計画の中に落とし込むことができると良い。

## ②耐震診断の調査計画及び既存資料調査結果（資料-4）

事務局より資料4に沿って説明した。

委員 この建物は複雑で力の流れが分かりにくい。3つのゾーンに建てられ年代が異なるので、年代が変わる部分と棟が接続する部分について、力が伝達される構造になっているか調べる必要がある。

耐震性の評価については、地盤の固有周期が分かるといいと思う。地盤と建物の固有周期が大きくずれていれば、耐震上有利に作用する。

史跡であるため、地盤を掘削することは難しいが、掘削せずに確認する方法もあるので、次年度以降に調査を実施することを考えてほしい。

事務局 実施設計の中で、地盤の固有周期と建物の固有周期の測定について、提案を検討する。

事務局 4月28日のオープンまで、建物東側と西側の両方とも雪囲いは毎年行っている。

委員 建物の東側には雪が溜まりやすい。雪解け水が溜まるが、その水をできるだけ早く他に逃がしてあげることが大切である。水につかる時間が少ないだけ、建物の痛みが少なくなるので、ところどころ水口をつけるなどして対応できるといい。今あるコンクリートの排水溝は流れる水量に対して足りているのか。

事務局 当初から排水を目的として排水溝が作られているので、それが機能しているかどうかである。側溝の上に直接砂利を置いているので、空間を開けて砂利を敷くなどするとより排水効果が上がり良いかもしれない。

委員長 その他、気づいた点等があれば後からでも良いので、事務局に知らせて欲しい。

委員 樹木などの管理に関してだが、木は育ち意外に寿命が短い。早いものでは7、8年で倒木する。子どもたちが多く訪れ、サテライトとなっている場所なのであれば、危険な古木は伐採して、子供たちと新たに植えるなど、更新していくという考えもある。

事務局 危険木については現在調査しており、伐採した方がよいものについては処理する予定である。